

利用者アンケート及び意見交換会におけるご意見・ご質問に対する市の回答

No.	ご意見・ご質問	回答
1	廃止前提の利用者アンケートはおかしい。	現時点で廃止を決定しているわけではありません。 ただし、設置当時からの社会環境の変化や今後かかる経費等をふまえ、今まで通りの運営は難しく、今の時代にあった施設の在り方について検討する、という方針のもと利用者のご意見を伺うことになったため、廃止と捉えられるような厳しい表現になってしまったと考えています。
2	今後ますます高齢者が増えるのに、なぜ施設をなくすのか。	現時点で廃止を決定しているわけではありませんが、施設設置当時から介護保険法施行の平成12年度以降、高齢者人口及び介護保険給付費が増加する中で、高齢者向けサービスを充実し続けてきた結果、今後も介護保険制度やサービスの持続可能性を確保するためには、財政状況改善など様々な見直しが必要な状況となっています。 また、八王子市の65歳以上人口は約15万人ですが、憩の家の定期利用者は200人弱であり、割合としては65歳以上人口の0.1%です。 高齢者が増えるからこそ、限りある資金をより多くの高齢者・より効果の高い取り組みに使うために、運営に係る経費や利用者数などのバランスを踏まえ、在り方を検討する必要があります。
3	利用者が少ないのは、施設について周知していないからではないか。	周知については、市ホームページ・人生100年サポートブック※への掲載や、市広報で教室の参加者募集を行っています。 ただ、市は、周知方法というより施設の立地や老朽化、60歳以上という年齢設定など施設の在り方が現在の社会経済情勢に適應していないと捉えています。 更なる周知をしたとしても、市民アンケートの回答を踏まえると、施設までの交通手段が限られている(施設駐車場のキャパシティも限られている)・市内中心部から距離がある等の理由で施設を利用できる人は限られると考えています。  ※高齢者の社会参加について情報をまとめた、市作成のハンドブック。事務所・市民センター・包括・保健福祉センター等で配布。
4	高齢者の居場所や人との交流の場が必要。廃止されると、行く場所や楽しみ、生きがいなくなる。引きこもりや孤独が増え、健康が損なわれることで、結果的に市の介護費が増加してしまう。	市は、利用者の方にとって現在の施設がコミュニティの場や生きがいとなっていると認識しており、そうした高齢者の社会参加による介護予防・健康維持は重要であると考えています。 そのため、施設の在り方を変えようとしても、近隣の公共施設の利用を促すなど、できる限り現在の利用者の方が活動を継続できる方法を検討中です。 そのほか、市では、居場所や交流の場の整備のため、シニアクラブやいきいきサロン等の市民の自主的な活動に対する補助を実施しており、恩方地域でも複数の団体が活動されています。
5	サークル活動や講座で利用しているので、廃止されると困る。	サークル活動や講座については、施設設置当時と比べて、民間や地域活動など多様なサービスが充実しているため、多くの代替手段が存在している状況です。 市として、社会参加による高齢者の健康維持は重要と考えているため、施設の在り方を変えようとしても、そうした民間サービスや近隣の公共施設の利用を促すなど、利用者の方が何らかの形で活動を継続できるように検討中です。

No.	ご意見・ご質問	回答
6	恩方地域は他にこうした施設がないので、廃止されると困る。	<p>恩方地域の公共施設としては、恩方農村環境改善センターや恩方市民センターがあります。一方で教室やお風呂、カラオケなどのサービスが一か所で提供される施設はありません。</p> <p>施設の在り方を変えらるるとしても、提供サービスの在り方について様々ご意見をいただいたうえで、近隣の公共施設での提供が可能かどうかも含め、現在の利用者の方が活動を継続できる方法を検討中です。</p>
7	年金暮らしで生活が厳しいため、無料施設を継続してほしい。有料施設や民間はお金がかかる。	<p>そうした利用者の方もいらっしゃることは認識していますが、今後は人口減少により税収が減少することが予想されるため、増加する高齢者へのサービスを充実させるためには、財政状況改善に資する取組が必要であると考えています。</p> <p>施設設置当時と比べて社会環境も変化しており、高齢者向け公共施設だから無料、ということの合理的な説明も難しく、憩の家がない地域の方はそもそも無料という選択肢がなく有料施設を利用している現状があります。そうした費用を負担している人との公平性の確保も必要となります。</p> <p>施設設置当時と比べて民間や地域活動など多様なサービスが提供されているため、施設運営に係る経費や利用者数などのバランスを踏まえ、在り方を検討する必要があると考えています。</p>
8	カラオケ、マッサージ器、スカイウェルは残してほしい。	<p>カラオケ等については、施設設置当時と比べて、民間や地域活動など多様なサービスが充実しているため、代替手段が存在している状況です。</p> <p>在り方を検討する中で、仮に施設が廃止となった場合に、それらの提供サービスについて様々なご意見をいただいたうえで、近隣の公共施設での提供が可能かどうかを検討する必要がありますが、設置場所をどうするか、機器の維持管理費を誰がどういった形で負担するかが課題になると考えています。</p>
9	有料化して、継続できないのか。	<p>行政は民間と異なり運営費を全て利用料で賄うという考え方はありませんが、特定の人しか利用しないサービスについて、費用の一部を担ってもらう受益者負担という考え方があります。</p> <p>今回の利用者アンケートの結果から計算すると、「有料化の場合でも利用する」と回答した方が全員週1回利用するとしても、収入は200万円ほどです。「利用頻度が月1回以下」と回答した方もいることや、有料化した場合利用者数・利用頻度が減ること等により、運営費1300万円に対して、実際の収入は多くても100万円程度だと予想されます。</p> <p>ただ、市は、費用面だけでなく、実際の利用者が少数の方に留まっていること、利用者が高齢者に限定されていることなども問題と捉えているため、総合的に検討することになります。</p> <p>どちらにせよ、今の憩の家のまま有料化することは条例上できないため、在り方を検討したうえで、有料化して継続となった場合は、条例を廃止し新たな目的を持った施設とする必要があります。</p>

No.	ご意見・ご質問	回答
10	運営費を縮小して、継続できないのか。	<p>運営費である指定管理料の75%が人件費であり、人件費は毎年上がっているため縮小は難しいと考えています。教室・お風呂・カラオケをなくし、部屋の貸出だけに事業をスリム化したとしても1,000万円はかかります。また、今後は人手不足も影響してくると思われます。施設までの交通手段が限られていること等から、勤務してくれる人を採用するためのコストや通勤費等のコストなど、間接的な経費も増大していくと想定しています。ただ、市は、費用面だけでなく、実際の利用者が少数に留まっていること、利用者が高齢者に限定されていることなども問題と捉えているため、総合的に検討することになります。</p>
11	大規模改修費を縮小して、継続できないのか。	<p>建物を存続させるための最低限の改修でも約1億4000万円かかる推計です。むしろ、ハザードマップで土砂災害警戒区域に指定されており、その対応費用も上乘せされること、大規模改修を実施することになったとしても、実施は早くても数年後で物価等が上昇していることが想定されるため、さらに費用が増大することになると考えています。なお、耐用年数50年を超えているため、建物を継続使用する場合、安全面を考慮して改修をしないわけにはいかないと考えています。ただ、市は、費用面だけでなく、実際の利用者数が少数に留まっていること、利用者が高齢者に限定されていることなども問題と捉えているため、総合的に検討することになります。</p>
12	多世代が使えるようにして、継続できないのか。	<p>検討はしていますが、今の憩の家のまま多世代が利用することは条例上できないため、在り方を検討したうえで、多世代交流施設として継続となった場合は、条例を廃止し新たな目的を持った施設とする必要があります。</p>
13	災害が増えているため、災害時の施設として残すべき。	<p>憩の家の建物がある場所は、ハザードマップで土砂災害警戒区域に指定されており、かけ崩れ、土石流、0.5m以下の浸水の危険性があるため、災害時の施設としては使用できません。恩方地域の避難所としては、恩方第一小学校と恩方中学校があり、憩の家から徒歩10分圏内に所在しています。</p>
14	「老人」という施設名称を変えるべき。	<p>市としても「老人」という言葉は時代に合っていないと考えています。そのためにも、施設の在り方について検討する必要があると考えています。</p>
15	何とか今まで通り施設を継続してほしい。	<p>現時点で廃止を決定しているわけではありませんが、継続するとしても今まで通りではなく、在り方は変えていく必要があると考えています。市は、費用面の問題のほか、実際の利用者が少数に留まっていること、利用者が高齢者に限定されていることなども問題と捉えています。</p>

No.	ご意見・ご質問	回答
16	令和6年度中に方向性を決定するとしても、途中経過を何らかの形で知らせてほしい。	書面の配布、HPへの掲載、説明会を再度開催するなど、利用者の方への経過報告について検討します。
17	利用者アンケート①問6(4)の、カラオケが有料化した場合の1時間300円という金額の根拠は何か。高すぎるのではないか。	利用者アンケート①問6の有料化した場合の料金は、民間サービスなど一般的な金額の半額程度を目安に記載しており、カラオケについては一般的な金額を目安に記載しています。本設問は、有料化した場合にこの金額にするというものではなく、有料化した場合の利用者の方のニーズを把握するためのものです。
18	令和元年度以前の利用者数データはないのか。50年前に施設が設置されたのに、最近のデータしかなければ判断ができない。	別紙のとおりです。データが残っている平成17年からコロナ禍前の平成31年までを比較すると延利用者数はおよそ2倍強増加しています。このデータから、現在の利用者の大部分を占めている75～84歳の方が施設を利用できる年齢となった時期と合わせて延利用者数が伸びていることがわかります。平成16年以前のデータは残っていませんが、市の人口構成や人口規模が変化していることを踏まえると、30～50年前の利用者数と現在を比較する意味は少ないと考えています。市は、現状のデータから延利用者数ではなく実利用者数が少数に留まっていること、施設利用者が高齢者に限定されていること、民間・市民活動の充実といった社会環境の変化に応じてサービスを充実してきており、財政負担が大きくなっていることなど、複数の課題があると考えているため、総合的に検討することになります。
19	1日あたりの来庁者数	令和5年度データでは47.3人です。 ※延利用者数10,567人÷開館日数223日。ただし、延べ利用者数には重複があるため、実際の人数は減少します。
20	お風呂の年間経費	年間約60万円です。内訳は年度によって上下しますが、概ね以下のとおりです。(企業会計ではなく減価償却費などを含まない官庁会計での運営費です。以下、No.21,24も同様です。) 【内訳】 水道代20万円、ガス代16万円、浴室消毒費2万円、浴室修繕費21万円
21	マッサージ器、スカイウエルの年間経費	マッサージ器は2台分の電気代がかかっており、スカイウエルは4台分の保守点検料51,000円と電気代がかかっています。 ※電気代の金額は算出不可能のため、不明です。
22	憩の家を継続するために必要な金額や、具体的な対策	現時点でかかっている運営費は現在年間約1,300万円となっています。費用面だけの対策では、施設のネーミングライツや寄付金、利用料の徴収などが考えられます。ただ、主な経費は人件費のため今後も上昇していくことが見込まれるほか、施設の老朽化に伴い改修費もかかることから、継続するために必要な費用は年々増加していきます。市は、施設設置当時から社会環境が変化しているため、対策というよりは在り方を検討する必要があると考えています。

No.	ご意見・ご質問	回答
23	なぜ長房ふれあい館は、先に改修工事を行っているのか。	<p>長房ふれあい館は憩の家と異なり、高齢者向け施設と市民向け集会施設を備えた複合施設です。土地と建物は東京都から行政財産使用許可を受け、無償で使用しています。</p> <p>東京都の財産ですので、適時に建物の大規模改修を行う必要があります。そのため、市が策定した中長期保全計画に基づき、令和3年度末に実施を決定のうえ、令和6年度7月から工事を行っています(なお、入浴施設は方針が決定していないため、最低限の改修としています)。</p> <p>ただし、高齢者向け施設部分については、利用が無料であることなど、憩の家と同様の課題があるため、憩の家の在り方検討を踏まえ、別途長房ふれあい館についても今後の在り方を検討する予定です。</p>
24	市民センターの年間経費と収入	令和5年度の市民センター指定管理料は18館で約3億8100万円、収入は約1億300万円です。
25	恩方農村環境改善センターの利用者数	別紙のとおりです。